

演 題：「患者側弁護士から見た医療事故対策」

内 容：第8回のビデオ講習会を開催した

参加者：68名

○第11回 開催日：平成20年2月21日（木）午後5時から6時30分

形 態：実技講習会

講 師：医療機器安全管理者 崎尾 秀彰 先生並びに臨床工学部 臨床工学技士

演 題：「人工呼吸器操作訓練」

内 容：人工呼吸器の安全な操作方法について、実技を通して解説がなされた。

参加者：77名

○第12回 開催日：平成20年3月13日（木）・14日（金）午後5時から7時

形 態：研修・発表会

講 師：リスクマネジャー小委員会委員

演 題：「リスクマネジャー小委員会における活動内容報告会」

内 容：各リスクマネジャー小委員会が年間活動内容及び検証結果について発表した。

参加者：273名

○オリエンテーション（対象：平成19年度新入看護師）

開催日：平成19年4月3日（火）午後2時から3時

形 態：講習会

講 師：医療安全対策課 安全管理者 渡辺 いつ子

演 題：「当院の医療安全対策～医療安全のとらえ方」

内 容：当院の医療安全体制について、解説がなされた。

参加者：90名

○オリエンテーション（対象：平成19年度臨床研修医）

開催日：平成19年4月12日（木）午前9時から午後4時30分

形 態：実技講習会

講 師：テルモ株式会社 社員

演 題：「模擬腕を使用した静脈穿刺・採血（体験学習）」

「輸液ポンプ、シリンジポンプの安全な使い方（体験学習）」

内 容：平成19年度臨床研修医が模擬腕を使用して静脈穿刺・採血、輸液ポンプ、シリンジポンプの安全な使い方を体験した。

参加者：37名

○ビデオ視聴会開催日：平成20年3月24日（月）から29日（土）午前9時から5時

形 態：医療安全対策課管理ビデオ視聴会

参加者：78名

○そ の 他 開催日：①平成19年11月15日（木）午後5時から7時

②平成19年12月11日（火）午後5時から7時

③平成19年12月26日（水）午後5時から7時

④平成20年 1月23日（水）午後5時から7時（録画上映）

形 態：講習会

講 師：インサイトラーニング株式会社 柿沼 良太 先生

演 題：「接遇&マナーの基本」（全教職員対象）

内 容：接遇・マナーを通じ患者様に対するサービスの向上（信頼関係の構築）について、解説がなされた。

参加者：1、699名

⑧医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

・医療機関内における事故報告等の整備（**有**）・無

・その他の改善のための方策の主な内容：

- 1) 患者様へ中心静脈カテーテルを挿管する際、カテーテルの先端が後腹膜に達した事例について、崎尾委員より再発防止策として認定医制度（許可制）を導入して、中心静脈穿刺に熟練した医師のみがカテーテルを挿管できるような体制を整備すべきである旨の提案があった。
（平成19年6月委員会）
- 2) 患児に採血を施行する際、体動があったため皮膚（踵）を傷つけた事例について、改善策として今後患児に採血を行う場合には、しっかり抑えて施行することを再徹底した。
（平成19年12月委員会）
- 3) 皮膚生検後に標本を作成する際、検体容器内に検体が入っていなかった事例について、改善策として今後生検を実施した場合には、標本瓶に検体が入っていることを医師が確認すること、また検体を受け渡す場合には担当看護師も検体が入っていることを確認することを徹底した。
（平成19年12月委員会）
- 4) 入院患者様に術前処置として剃毛を行った際、注意不足から右手に持っていた剃刃が患者様の左下肢膝窩上部に触れて切傷させてしまった事例について、改善策として今後危険物を取り扱う際は、危険物に対する意識と周囲への注意をしっかり持ち、安全に処置を行うことを徹底した。（平成20年1月委員会）
- 5) A型肝炎ワクチンを接種する患者様に確認不足から誤ってインフルエンザワクチンを接種した事例について、当該部署にて立案した再発防止策（①机の上には接種該当ワクチンの入ったトレイだけを置き、他ワクチンの入ったトレイは絶対置かない。②トレイの中に接種該当ワクチンの表示してある包装箱を必ず入れる。③接種該当ワクチンの指差し確認を行う。④接種される方に接種該当ワクチンの最終確認を行う。）を今後院内広報誌第62号（平成20年2月発行）に掲載し、病院全教職員に対して注意を促す予定である旨の報告があった。
（平成20年1月委員会）
- 6) 眼科外来において患者様に視力検査を行う際、確認不足から誤って同姓同名である別の患者様に検査を実施するというインシデント事例が発生した旨の説明があった。これを踏まえ情報処理室 磯山主任より、本件事例に係る再発防止策（システム改良を含む）について、下記のとおり報告があった。

【再発防止策】

- (1) 受付患者一覧を使用して画面の中でチェックする。
- (2) 受付患者一覧を使用して全患者をチェックする。
- (3) 患者照合システムを構築して照合する。
- (4) 確認方法を検討する。

なお、上記事項については、種々検討の結果、コスト面・運用面等を踏まえて検討していく必要があることから、引き続き医療情報委員会において検討していただくことを依頼することとした。（平成19年5月委員会）

- 7) 臨床研修医が起こしたアクシデント事例（内容：指導医が不在であるにもかかわらず、研修医単独で胸腔ドレーンを抜去したが、適切な抜去方法でなかったため、その後指導医により再度胸腔ドレーンを挿入した事例）の再発防止策について、下記のとおり検討が行われた。

小鷹医師：コールではなくPHSを導入すれば、指導医が現場を離れることは無くなる。

崎尾委員：本事例については、臨床研修医単独で医療行為を行ったことが問題である。

上記事項については、臨床研修医が指導医から直接指導を受けなければならない医療行為を施行する際には、必ず指導医の監督下に行うことを再徹底するよう臨床研修センターへ依頼することとなった。(平成19年11月委員会)

- 8) 野原委員長より、最近患者様が採血後に痺れや痛みを訴える事例が多発していることから、採血をより安全に施行するため、院内で統一したマニュアルを作成すべきではないかとの提案があった。本件について、配付資料「採血に係る各部門別マニュアル(看護部、臨床検査部)に基づき、種々検討を重ねた結果、今後患者様に採血を施行する際には、危険性(神経が刺激されて手が痺れる可能性がある)を十分説明した上で、患者様に採血を施行するかどうか決定権を与えるべきである旨の提案があり、了承された。(平成20年1月委員会)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>【基本指針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内感染防止対策に関する基本的な考え方 ・ 院内感染防止対策委員会・その他の組織に関する基本的事項 ・ 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 ・ 感染事例報告などの医療にかかわる安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ・ 施設内感染事例発生時の対応に関する基本方針 ・ 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 ・ 患者からの相談への対応に関する基本方針 ・ その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>患者及び教職員への院内感染を防止し、またその対策を講じ、病院内の環境保全と安全衛生を確保するために、院内感染防止対策委員会を設置し、院内感染防止に関する諸施策及び感染症患者取扱いの基本的事項等について審議する。</p> <p>【委員会での内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回議事の確認 ・ 病原体の検出報告 <ul style="list-style-type: none"> ①MRSAと緑膿菌の検出状況 ②血液培養陽性者リスト ③監視培養のMRSA陽性率 ④病棟別検出菌上位10菌種 ⑤薬剤耐性菌(MDRP, ESBL・βBL産生菌)検出患者 ・ 抗MRSA薬使用状況 ・ カバペム系薬使用状況 ・ 第4世代セフェム系抗菌薬の使用状況 ・ 病棟別抗菌薬使用状況 ・ 感染症発生報告書提出件数 ・ 事例から学ぶ感染対策とICT委員が知っているると便利な微生物学知識 ・ その他（その月の審議事項及び事例報告等） <p>【委員会開催日】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 平成19年 4月24日 第2回 平成19年 5月29日 第3回 平成19年 6月26日 第4回 平成19年 7月31日 第5回 平成19年 8月28日 第6回 平成19年 9月25日 第7回 平成19年10月30日 第8回 平成19年11月27日 第9回 平成19年12月18日 第10回 平成20年 1月22日 第11回 平成20年 2月26日 第12回 平成20年 3月25日 	

③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況

全教職員対象
年 6 回
部署別講習
3 回

・ 研修の主な内容：

【全教職員対象講習会】

- 第1回 開催日及び参加人数： 平成19年6月1日 418名
演題及び発表者： 『手指衛生は、感染対策の第一歩』
微生物学教室 藤澤隆一
『間違いだらけの見た目重視の手指衛生』
看護部 香取三奈・真柄雄樹
『ICT看護師活動報告』
実験グループ、企画グループ、マニュアルグループ
- 第2回 開催日及び参加人数： 平成19年9月21日 738名
演題及び発表者： 『SSIの基礎知識』 臨床検査部 山本芳尚
薬剤部 蘇原由貴
看護部 香取三奈
『米国に見る臨床現場におけるSSI対策の実際と安全問題』
チュロ大学(米国)臨床外科教授 北浜 昭夫 先生
- 第3回 開催日及び参加人数： 平成19年11月5日 656名
演題及び発表者： 『院内でのカテーテル感染とマシナルリアップリコ-ション』
臨床検査部 大内友二
看護部ICT CVカテグループ
救急医学 小野一之 先生
救命救急センター 増田雄彦 先生
- 第4回 開催日及び参加人数： 平成19年12月6日 777名
演題及び発表者： 『インフルエンザと咳エチケット』
呼・アレルギー内科 福島康次 先生
臨床検査部 及川信次
看護部 ICT 香取三奈、真柄雄樹
- 第5回 開催日及び参加人数： 平成20年2月15日 520名
演題及び発表者： 『3病院の感染対策』
赤痢アメーバ、腸チフスの体験から 日光医療センター 村上妃沙子
事務から見た感染対策 越谷病院 篠原君夫
神経内科における抗菌薬の使用について
神経内科 岩波正興 先生
- 第6回 開催日及び参加人数： 平成20年3月21日 301名
演題及び発表者： 『平成19年度 ICT活動報告』
尿路カテグループ、ラントグループ、企画・広報グループ
実験グループ、薬剤部 蘇原由貴、萱沼保伯

【部署別講習会】

- 第1回 委託職員対象
(東武ビルメンテナンス、白栄社、東武レストラン)
開催日： 平成19年7月23日、25日、26日、8月10日
参加人数： 220名
内容： グリッターバグによる手洗いの確認
- 日光医療センター
開催日： 平成19年8月1日
参加人数： 80名
内容： 各病棟をめぐり手洗い講習
(手指の培地をとる、グリッターバグによる手洗いの確認)

○第2回 委託職員対象

(東武ビルメンテナンス、白栄社、東武イトラ)

開催日：平成19年11月13日、15日、16日、20日、29日、12月20日

参加人数：222名

内容：職業別感染対策について講演

発表者：看護部ICT 泉澤清子、関口青子

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
医療安全管理部リスクマネージャー小委員会とICT委員で連携をとり、改善検討している。
 - ・ 病棟での1次洗浄から材料部での洗浄・消毒滅菌への一部移行
 - ・ 多剤耐性菌検出部署での独自マニュアルの作成
 - ・ 各部署での感染防止対策マニュアルの作成
 - ・ 日光医療センターで検出された菌や対策についてのコンサルテーションなど
 - ・ とちぎ地域ネットワーク事業で医療安全産業振興セミナーを開き、産学協同で施設内感染対策器具の改善・改良を行っている。

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○米国において起きたヘパリン製剤に不純物が混入したことによる副作用に関して、当院における適正使用の実施と対策について ○当院で新規に採用された薬剤の適正使用に関する研修 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (①・無) ・ 業務の主な内容： <p>医薬品の採用、医薬品の購入、調剤室における医薬品の管理、病棟・各部門への医薬品の供給、外来患者への医薬品使用、在宅患者への医薬品使用、病棟における医薬品の管理、入院患者への医薬品使用、医薬品情報の収集・管理・提供、手術・麻酔部門、救急部門・集中治療室、輸血・血液管理部門、生命維持管理装置領域、臨床検査部門、画像診断部門、歯科領域、他施設との連携、事故発生時の対応、教育・研修。</p> 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (①・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○抗菌薬使用に関する届け出制について、従来の抗MRSA薬、抗VRE薬にカルバペネム系抗菌薬を追加して安全使用のための改善をした。 ○誤投与防止のため、原則として病棟・外来の定数からカリウム製剤の注射薬をなくした。 	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 4 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医療安全対策講習会(人工呼吸器) 1回 臨床工学部による病棟単位の人工呼吸器勉強会(人工呼吸器の取り扱い方等について) 3回 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 点検記録表に基づく点検。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> メーカーからの機器に対する安全情報を関連部署へ配布し、周知徹底を図る。 	